

令和8年 第6回綾町議会(9月)

定例会

一般質問通告書

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
提出議員 外山	
1. プール無料券について	(1) 缶バッジ未着用時の有料化ルールに関する児童生徒への周知状況と、実際に料金を支払って利用した児童生徒の有無、及びその人数について伺う。 (2) 缶バッジがフリーパスとなる中で、プール現場ではどのように入場者の確認や人数チェックを行ったのか、具体的な管理方法を伺う。 (3) この夏休み期間中にプールを利用した幼児・児童・生徒それぞれの利用人数について伺う。
2. 河川の遊泳場所の安全確認について（町民の声）	(1) 河川で泳いでいる生徒がいるが、教育委員会等、町職員は現場に行って安全面の確認はしているのか伺う。 (2) どこの地区？町外かの把握はしているのか伺う。

3. オンデマンドバスについて (町民の声)	(1) 土日の移動手段を確保するため、タクシーの運行支援やオンデマンド交通の週末運行はできないか伺う。 (2) 夕方の買い物や用事に対応できるよう、オンデマンドの運行時間を午後 6 時頃まで延長できないか伺う。 (3) 重い荷物の運搬や移動が困難な方のために、週 2 回程度でも自宅前から乗車できる『ドア・ツー・ドア利用券』のような仕組みを導入できないか伺う。 (4) コインランドリーや路線バス停など、生活に必要な場所をオンデマンド交通の停留所に新たに追加できないか伺う。
-----------------------------------	---

4. 綾川荘・酒泉の杜等の指定管理について (町民の声)	(1) 宮交シティが指定管理者となった初年度の綾川荘の営業利益はいくらあったのか。また、そのうち綾町へ納付・還元された金額はいくらか伺う。 (2) 綾川荘に対しては年間2,500万円の指定管理料が支払われていますが、これとは別に修繕費や工事費など、町から支払われた公金の総額とその詳細を伺う。 (3) 新たに指定管理となった酒泉の杜においても、綾川荘と同様に『一定額以上の工事費等は請求書が出されれば町が負担する』という仕組みになっているのか。その基準と負担ルールを伺う。 (4) 指定管理期間が満了・終了した際、町が所有者となっていない建物や関連施設等は、最終的に誰の所有物となるのか。権利帰属の扱いについて伺う。 (5) 行政と企業の関係性について。一般企業が行政の姿勢に合わせる筋がありますが、本町においては『町長が特定の企業に対して過度に配慮し、すり寄っているのではないか』という不審や不満の声が聞かれています。公正・公平であるべき行政のトップとして、町長はこれをご指摘をどのように受け止め、どのようなご意見をお持ちか伺う。
---	---

5. 教員の研修受講について	(1) 県教委と宮崎市教委は、県内のスーパーティーチャー15人を講師に迎えた授業づくりセミナーを宮崎公立大で開催したが、綾小・中各何人の先生が参加されたか伺う。 (2) 授業づくりセミナーに参加された先生方は、それぞれの教科のセミナーを受講されたのか伺う。 (3) 授業づくりセミナーで学んだ指導技術や工夫を、今後、綾小・中学校の日常授業で生かしていく予定ですか伺う。
-----------------------	---

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
提出議員 中神	
1. 空き家対策の現状と課題について	(1) 令和5年度に施行された改正空き家等対策法により管理不全空き家への指導が強化されたが、現状を伺う。 ① 空き家および特定空き家並びに管理不完全空き家について、把握されている各件数のうち、現在までに助言・指導・勧告・命令等の事例はあるのか。また、所有者の反応はいかがなものか。 ③ 家だけでなく周辺の木、竹、落ち葉など近隣住民への対応策と所有者が亡くなり身内も財産放棄されていることへの対処法。 (2) 空き家解消に向けた対策と課題について伺う。 ① 空き家解消に向けた対策と課題について伺う。 ② 空き家を処分して更地にしたら固定資産税が高くなったと聞いたが、特例での減税措置はできないか伺う。 ③ たとえば家財道具や仏壇などの片付け費用の補助をしてはどうか。考えを伺う。

	④借り手がいても古い家ばかりである。地震など災害における借主側のリスク解消の対応策について伺う。
2. 外国人技能実習生の受け入れについて	(1)町内でも外国の方をよく見かけるようになったが、外国人技能実習生受け入れの現状などを伺う。 ①町内での居住者・就業者が何人おられるのか。また、職種と住まいについて把握しているのか伺う。 ②ハウス農家の数軒が雇用をされる。また、受入れを検討されている建設業者もあり、町営住宅を貸してもらえないかとの相談を受けた。空き部屋対策にもなると思うが見解を伺う。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
提出議員 日高	
1. 第3次綾町地域福祉計画および第2次綾町地域福祉活動計画、地震対策等について	(1) 本計画の期間は令和6(2024)年度から令和11(2029)年度までの6年間ではありますが、令和8(2026)年度において、計画の中間見直しを行なうということですが、その見直しの進捗状況を伺います。 (2) 令和7年8月6日から大雨による豪雨災害から1年あまり、令和8年7月28日の熊本県を中心とした地震、これまで300回以上観測され未だに頻発しています。被害の大きさから、綾町がまず取り組むべき対策は何か伺います (3) 熊本地震における今回の被害の大きさから、まずは迅速な対応が求められます。綾町の災害ボランティアセンターの設置場所候補地はどこか伺う。 (4) 熊本では水源を地下水とする地域が多く、地下の変化に水質が影響されやすいと聞く。綾町も対策が急務かと思うので対応を伺う。 (5) 今回の熊本地震で被災された方への罹災を受け、綾町への避難者はあったかは、また、これからの対応について伺う。

2. 宮交タクシーの営業時間変更について	(1) オンデマンド交通事業施行後の綾町には営業時間帯においてもタクシーはいないと感じる。何らかの対策が急務であるとする。対策に取り組む考えがないか伺う。
-----------------------------	--

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
提出議員 橋本	
1. バイオガスパ ラント事業に ついて	(1) 残飯の堆肥化が諸事情で行き詰まり、解決策の検討から始まったのが総事業費 10 億円ものプラントになっている。農業(家)事情の変化や人口減少を見れば一旦立ち止まり、事業の見直しが必要ではないか見解を伺う。
2. 自衛隊員募集 に関し、住民 票の 4 情報を 提供すること について	(1) 綾町での情報提供の有無と提供していれば何年度から始まったのか。提供の根拠と町長の見解を伺う。 (2) 情報提供を拒否することができることについての広報はどのように、どの時期に実施しているのか。また、除外申請者数の報告を求める。
3. 特別障害者手 当について	(1) 2025 年 6 月議会で一般質問をしたことについて、当時受給者は大人 5 人、子ども 8 人と答弁があり、対象者について全体を把握してはいないとの事だった。また、綾町での広報も十分ではなかった。HP や広報紙で制度の概要を周知していくとの答弁があった。広報の経過報告に合わせて現在の受給者数の報告を求める。

	(2) 綾町の職員も含めて福祉関係施設等職員による町民への情報提供はどのように行われているのか伺う。
4. 地震被害への対策について	(1) 熊本地震で、改めて被災後の対応の困難さを痛感している。町民一人ひとりが何をどの程度備蓄しているのか、それは適量なのか、個別備蓄品の日常的な管理はどうしているのか、その管理は正しいのかなどの情報交換や共有が必要だ。そのような機会を設ける考えはないか伺う。 (2) 地域防災計画において、備蓄計画のもと必要最低限の備蓄がされていると思うが、現在、綾町では何をどのくらいの量が備蓄されているのか、備蓄品更新の状況もあわせて伺う。
5. 生活保護世帯の生活環境改善について	(1) 2023 年（R5）9 月に生活保護世帯へのエアコン設置について質問した。当時は、48 世帯 63 人中 8 割がエアコンを設置しているとの答弁だった。現在の状況を伺う。 (2) 生活福祉資金の貸し付けによるエアコン設置の実態はどうか。生活福祉資金は保護世帯以外でも利用は可能か伺う。

	(3) 最高裁判決を踏まえ、追加給付を受けることができる対象世帯と人数の報告を求め、対象者への周知について伺う。
6. 馬事公苑の子どもの遊び場について	(1) 孫の友人から「馬事公苑の遊具は無くなるのか」と問われた。現段階での計画もしくは町長の考えを伺う。
7. 町内の環境整備について	(1) 8月お盆の前、「この頃綾神社の方はきれいにしてくどこっちは全然よね。何んだろうね」と言われた。確かに国スポに関する事業があっただけ、「あっちはきれいだけどこっちは・・・」は理解できる。せめて墓参りが多いお盆や年末はきれいにしてほしいと思うのは無理もない。見解を求める。 (2) 酷暑の中、シルバー人材センターの方が県道の除草作業をされている現場（南俣・須木線と思われる）を見られた町民から「道路わきの除草作業は非常に危険だ。ブロック等を置くなど、草が生えないようにすべき」との意見があった。見解と技術的に対応策はあるのか伺う。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
提出議員 興梠	
1. タウンミーティングへの議員の出席制限について	(1) 本年 6 月 9 日付けで町長から議長宛に発出された、議員のタウンミーティングへの出席に関する文書について、当該措置の制度上の整理及び判断の経緯、並びに今後の取扱いについて、町長の見解を問う。
2. 宮交タクシー綾営業所の事業縮小に伴う地域公共交通の確保について	(1) 本年 8 月 1 日、町内唯一のタクシー事業者である宮交タクシー綾営業所において、事業の体制が縮小された。これを受け、令和 8 年 3 月定例会における一般質問への答弁内容を踏まえ、事業体制の縮小に至る経緯における町の対応、及び今後の代替交通手段の確保策について、町長の見解を問う。 ①事業縮小の経緯と町の把握について ②3 月定例会での指摘以降における事業者との協議について ③本町における地域公共交通に対する認識及び施策上の位置づけについて ④今後の町内の公共交通全般の計画について

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
提出議員 山田	
1. 2026 年熊本地震から学ぶ綾町の防災対策について	(1) 地震を踏まえた本町の防災対策の見直しについて、2016 年の熊本地震及び本年 7 月の熊本地方での地震を受け、本町の地域防災計画、避難計画、備蓄、避難所等について、改めて点検・見直しを行う考えはあるのか伺う。 (2) 大規模地震発生時の避難所対策について、震度 7 クラスの大規模地震が発生した場合を想定し、避難所の収容人数、停電・断水時の電源・水・トイレ、空調、食料等の確保は十分か。また、避難生活が長期化した場合の対応をどのように考えているのか伺う。 (3) 中山間地域における孤立対策について、地震による道路の寸断等による地域の孤立を想定しているか。孤立した地域への安否確認、食料・水・医薬品等の物資輸送、救急搬送、通信手段の確保についてどのような対策を講じているのか伺う。 (4) 避難行動要支援者への支援について、高齢者、障がい者、独居高齢者等の避難行動要支援者をどのように把握しているか。また、個別避難計画の作成状況と、実際の避難訓練への活用状況について伺う。

	(5) 実践的な防災訓練について、熊本地震の教訓を踏まえ、停電、断水、道路寸断、避難所開設、要支援者の避難、物資不足等が同時に発生することを想定した、より実践的な防災訓練を実施する考えはあるのか伺う。 (6) 今後の本町の地震防災対策について、2016 年の熊本地震から 10 年を迎えたこと、また本年 7 月にも熊本地方で地震が発生したことを踏まえ、本町として今後特に強化すべき地震防災対策をどのように考えているのか伺う。
2. 交通弱者の移動手段の確保と持続可能な地域交通について	(1) 本町における交通弱者の実態把握について、自家用車を持たない、または運転免許証の返納等により自ら運転できない高齢者等をどの程度把握しているか。また、通院・買い物・社会参加等の移動上の課題や、現在のオンデマンド交通「ぐるっとあや」の利用状況・時間帯・予約状況等をどのように把握・分析しているのか伺う。 (2) 現在の交通サービスの評価と課題について、社会福祉協議会が運行するオンデマンド交通「ぐるっとあや」及びタクシーについて、現在の運行日、時間帯、予約方法等を踏まえ、交通弱者の日常生活を支える手段として十分であると認識しているか。また、現在の交通体系における課題をどのように捉えているのか伺う。

	(3) 土日・祝日及び夕方以降の交通手段について、土日・祝日や夕方以降の交通手段が不足している状況を「交通空白」の課題として認識しているか。また、オンデマンド交通「ぐるっとあや」の運行日・時間帯の拡大や、休日等における実証運行を行う考えはないのか伺う。 (4) 新たな交通手段の導入について、現在のオンデマンド交通「ぐるっとあや」やタクシーを基本としながら、乗合タクシー、公共ライドシェア、地域住民による移動支援、医療・福祉・商業施設等との連携など、新たな交通手段を導入する可能性についてどのように考えているか。また、関係者と協議する場を設ける考えはないか伺う。 (5) 将来の持続可能な地域交通について、人口減少と高齢化が進む10年後、20年後を見据え、本町の「地域の足」をどのように確保していくのか。また、住民の移動実態や交通需要を把握した上で、持続可能な交通体系を構築していく考えはないのか伺う。
3. 人口減少と物価高騰下における町民生活支援および基幹産業（農業・中小企業）の持続的発展に向けた包括的施策について	(1) 人口減少対策と町民の生活支援策について ① 本町における直近の人口動態の現状認識と、若年層・子育て世代の定住・移住を促進するための具体的な施策について伺う。

て	②継続する物価高騰に対し、家計負担を直接軽減するための独自の生活支援策（低所得者・子育て世帯等への支援）の計画・実施状況について伺う。 (2) 農業に対する物価高騰対策および経営持続化支援について ①燃油や肥料等の生産資材価格高騰に対し、綾町の強みである有機農業（自然生態系農業）を含めた農業者への直接的な経営支援策の現状と今後の見通しについて伺う。 ②農業従事者の高齢化や後継者不足に対し、新規就農者の確保・育成および営農継続に向けた町独自の支援体制について伺う。 (3) 町内の中小企業・小規模事業者に対する経済・経営支援について ①エネルギー価格や原材料費の高騰等に直面する町内事業者への経営支援（資金繰り補助や付加価値向上への助成等）の具体策について伺う。 ②税制改正や各種制度変更等に伴う事業者への影響の把握と、相談窓口の拡充やデジタル化推進など事業継続に向けた対応策について伺う。
---	---

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
提出議員 上野	
1. バイオガスパ ラントについ て	(1) 何をもって議会との合意形成が成されたと判断するのかわかる。 (2) 何をもって住民との合意形成が成されたと判断するのかわかる。
2. 国スポプレ大 会開催をうけ ての課題対策 について	(1) 先日ハンドボールのプレ大会が行われました。来年の国スポに向けての大事な大会となるが、プレ大会を通して見えてきた課題等についてわかる。
3. 町の行政の仕 組みについて	(1) 一般的に行政サービスは住民からのリクエストがあって行ういわゆる「プル型」で行われているが、綾町においてはどのように行政サービスがなされているのかわかる。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
提出議員 海江田	
1. 肉用牛総合支援センターの現状と今後の畜産振興について	(1) 肉用牛総合支援センターの現在の利用状況について ①現在のセンターの受入可能頭数と、実際の預託頭数について、過去5年間程度の推移を伺う。 ②現在、センターを利用している農家戸数は何戸あるのか。また、利用農家数について、開設当初と比較してどのような状況にあるのか伺う。 ③母子預託、不妊牛・育成牛預託など、それぞれの事業について、現在どのような利用状況となっているのか伺う。 (2) センターを整備したことによる成果について ①センター利用農家における受胎率や分娩間隔について、利用前と利用後でどのような成果が出ているのか伺う。 ②センターを利用することで、農家の飼養管理にかかる労働時間はどの程度軽減されていると町は認識しているのか伺う。

	③センターの利用によって、繁殖牛の増頭や農家所得の向上につながった事例を町はどの程度把握しているのか伺う。 ④町として、センター設置時に掲げた目的が現在どの程度達成されていると評価しているのか伺う。 (3)センターの維持管理と財政負担について ①現在の指定管理者及び指定管理の期間について伺う。 ②収支の状況（町負担額含む）について伺う。 ④今後、施設の修繕や設備更新等にどの程度の費用が必要になると見込んでいるのか伺う。 ⑤町として、今後も肉用牛総合支援センターを綾町の畜産振興のための公共的な施設として維持・活用していく考えなのか、町長の見解を伺う。
--	--

	(4) 今後の肉用牛振興を考える上で、最も重要な課題の一つである担い手不足について伺う。 ① 本町の肉用牛の繁殖農家戸数と繁殖雌牛頭数の推移状況と、町はどのような中・長期の見通しを持っているのか伺う。 ③ 後継者のいない繁殖農家の経営を、次の世代へ引き継いでいくために、町としてどのような対策を考えているのか伺う。 ④ 新規就農者が肉用牛経営を始める場合、牛舎や繁殖牛の導入など、大きな初期投資が必要となる。センターを活用することによって、初期投資や労働負担を軽減し、「小規模から肉用牛経営を始め、段階的に規模を拡大する」という新しい就農モデルを構築する考えはないか伺う。 (5) I C T ・スマート畜産への対応について ① 現在、肉用牛総合支援センターにおいて、どのような I C T 機器や省力化設備を導入しているのか伺う。 ② これらの機器を活用することで、分娩事故の防止、発情発見、受胎率向上、労力軽減などにどのような効果が出ているのか伺う。
--	--

	③今後、A I やセンサー技術など、新たなスマート畜産技術をセンターに導入する考えはないか伺う。 (6) センターを「次世代の畜産拠点」として活用する考えについて ①センターを、今後の綾町の肉用牛振興の中核施設として、どのように位置づけていく考えなのか伺う。 ②既存農家の経営支援だけでなく、後継者育成、新規就農、規模拡大、I C T活用などを一体的に支援する「次世代型の肉用牛支援拠点」へと発展させる考えはないか伺う。 (7) センターを今後どのように活用し、繁殖農家の所得向上、担い手の確保、繁殖牛の増頭、そして綾町の肉用牛産地としての持続的な発展につなげていくのか。町長の決意と今後の具体的な方針を伺う。
--	--